

ここ上野が丘にも早春の息吹が満ち始めたこの頃です。本日、多くのご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸高等学校第七十二回卒業証書授与式を盛大に挙げてまいりましたことは、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。

さて、ただ今、蛍雪の功なり、本校の所定の課程を修了し卒業証書を手にした三百五十五名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんのこれまでの努力と研鑽に心より敬意を表します。皆さんは、人生の中で最も多感な高校時代を、ここ神戸高校で過ごし、心身共に、大きくそして逞しく成長しました。

本校で過ごした三年間の思い出は、数多くありすぎて、一言では語り尽くせないのではないのでしょうか。神戸高校は全人教育を標榜しています。ですから皆さんは、三年間、勉強だけでなく、様々な多くの学校行事、自治会活動、部活動等に、全力で取り組んでまいりました。他の高校では決して経験できない、濃密な高校生活であったに違いありません。夢や希望を思い描き、一方では、悩みや挫折も経験してきたことと思います。そうした中で、生涯の友となる友人にも出会い、人としての底力を身につけた、と思っています。

私が卒業生の皆さんと過ごしたのは一年だけでしたが、私は、皆さんの日々の学校生活の様子を見て、何度も感心し、ときには感動もしていました。皆さんの何事にも全力で打ち込む姿。さりげなく他の人に心遣いができる想像力や優しさ。品のある表情や話し方、立ち居振る舞い。皆さんは自分では気づいていないかもしれませんが、教室で、運動場で、芸術館で、通学途上で、いつでもどこでも君たちは、一生懸命で、格好良く、美しく見えました。このような人間性、生き方は、一朝一夕に身に付くものではありません。おそらく、長い時間をかけて、学校や地域、そして何より家庭において育まれてきたのだと思います。そして、それを受け入れる素地が、皆さんにはあったのだと思います。これも、人としての底力です。

こんなに素晴らしい皆さんと共に過ごすことができたことは、私にとって大きな幸せであり、誇りです。

ところで、人生の目的とは何か。難しい問題ですが、私は、人類に貢献することだと思っています。だから、人の役に立っていると思ったとき人は喜びを感じ、人類の一員である自分を磨き高めていると思うとき、充実感を持つのだと思います。違う言葉で表現するならば、社会貢献と自己実現です。

皆さんは今、歴史と伝統を誇る本校第七十二回卒業生として、社会への第一歩を踏み出そうとしています。これから皆さんが活躍していく現代社会は、国家や地域の枠を超え情報や資本等が自由に行き来するグローバル化の進展、ICTやAI等の急激な進歩などにより、未来を予測することが極めて困難な時代を迎えています。

また、昨今の社会情勢を見てみると、毎年起こる地震や豪雨などの自然災害、新しい感染症の発生、待ったなしのエネルギーや環境の問題、また、思想的対立、少子高齢化や移民の問題など、知識だけでは答えが見つからない難しい課題が山積しています。

このように進むべき先が見えにくい時代にあって、皆さんには、人々の先頭に立って叡を

かき分けながら進む人のように、未来への道を切り拓き、自分のための、そして自分の後に続く人々のための道を作っていく人になって欲しいと思います。

皆さんは、そのための底力を、この神戸高校で培ってきました。そしてこれから、社会において、この底力を発揮するためには、皆さんが三年間日々接した、四綱領を実践し続けることが大切です。

私の解釈を申し上げますと、「質素剛健」は、真面目で実直、勇気あることです。「自重自治」は、自らの使命を重んじ、品性を保ち、自らが定めたことによって自らの行為を律することです。

「質素剛健」「自重自治」。実直で勇気があり、品性を保ちながら自らの使命を重んじる生きざまが、自らを高め、人々を惹きつけるのです。皆さんには、是非そういう生きざまを積み重ね、社会貢献と自己実現を果たして欲しいと願っています。

さて、保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。大切なお子さまをお預かりし、本校職員一同、至らないところもあったかもしれませんが、心の限りにお子さまの成長のために努めてまいりました。この間、本校の教育方針にご理解を賜り、本校にお寄せいただいたご厚情とご支援に対しまして、職員を代表いたしまして、心からお礼申し上げます。

また、ご多忙中にも関わりませず、中学校の校長先生を始め、同窓会長様、PTA会長様、本校歴代校長先生ほか多くのご来賓の方々に、ご臨席を賜りました。衷心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

卒業生の皆さん、いよいよ凶南鵬翼、旅立ちのときです。

春風や闘志いだきて丘に立つ（高濱虚子）

春蘭の気品と楠のたくましさを持つ、三百五十五羽の鵬雛は今日、鵬となり、春風を力とし、春風に乗って、高き学び舎から、未来へ羽ばたいていこうとしています。

一人一人の未来が、光り輝くものとなることを心からお祈りし、式辞といたします。

令和二年二月二十八日

兵庫県立神戸高等学校長

世良田 重人